



岐阜県教育懇話会
〒503-0023
大垣市笠木町 229-5
(0584) 91-2478
口座番号 00800-3-5390

綱 領

「われわれは歴史と伝統を尊重し、日本にふさわしい中正な教育を推進する。
われわれは教養と品位の向上につとめ、真摯愛の精神とともに、明るく純粋な教育を研修する。
われわれは個人の自主尊厳を尊重しつつ、政治的中立を厳守し、主体性を堅持する。」

の日本型教育の実践」と題して発表された。

先生自

皇學館大学道徳科教育研究協議会 第十一回研究大会報告

昨年十一月三十日、伊勢の皇學館大学にて道徳科教育研究協議会の第十一回研究大会が開催された。

研究テーマは「子供の自己肯定感と道徳教育の役割」で、四本の実践発表と記念講演があった。

吾が国の青少年は自己肯定感が低いと言われ、いじめ・不登校との関連も指摘されている。その対応もあつて小学校の道徳が平成三十年(中学は三十一年)から教科となり、子供達が自らを肯定的に捉え、よりよく生きようとする意欲と態度を育むことが目指されてきた。

その趣旨にそつて本大会では、自己肯定感を育むために道徳教育の果たす役割や子供達の心の支える実践の在り方を検討することとされた。

開会式では新田均教授が主催者を代表して挨拶をされ、早



速実践発表に移った。

最初は、長崎県立公立小学校の岩永将大教諭で、「子どもが自己の生き方に本気で向き合う道徳科の授業」見方・考え方を働かせて道徳性を養う授業「デザイン」をテーマに発表した。先生は初任の時に学級崩壊を経験し、学級が安心できる場でない限り、個性の伸長もできず、自己肯定感も育めないことを体験した。

そこでどの子も居場所があり、一人一人に成功体験を積ませることを目指した。一例として ADHD と LD の障害のある算数大嫌いという児童に徹底してよりそつた指導をした。障害についてや、算数の指導法などを勉強し、算数のノート写しなどの工夫をした結果、算数が少し好きになり、友達とも会話ができるようになったという。これは自己肯定感が高まったためと思われ、教師は指導力を磨き、子供の状況に応じた指導をすべきであると強調された。

身が中学校で自己肯定感を持ってず、友人がない、いじめに遇うという日々だった。不登校に至らなかつたのは、母の愛があり、勉強で見返そうとがんばつたからだつた。子供達の自己肯定感を高めるためには、自分をとりまくもの(国や地域、学級、家族)を肯定できることが大切で、何より自分を認め、希望が持てる必要がある。そのために自分の命の尊さ、家族の愛情、クラスの良さ、国の素晴らしさを感じるように指導していくべきである。日本には教育勅語という人として大切にすべき要点を簡明に示した教えもあり、その活用も考えるべきとされた。

続いて、神奈川県立中学校の木法子教諭の「みんな子宮から生まれてきた」お産が変われば教育が変わる」と題した実践報告があつた。先生は中学の国語教師をしながら、胎内記憶教育師、おむつなし育児アドバイザー、産前産後よりそい師などを取得し、自身のお産の体験から、公教育で「性・お産・育児」をもつと指導すべきと主張している。胎内記憶教育とは、子供を産まれる前から主体をもつた存在として接する教育観で、親子の倫理関係を深め、子供が「生まれてきてよかつた」という安心感を育てるのである。そのため親は妊娠中から心の安定を大切にし、お産も自分に備わつた自然の力を信じることに。生まれた子供の発する声、表情、動きに敏感になり、発する言葉を尊重することだつた。そうすると排泄のタイムリングも分かり、おむつも不要となることであつた。

現在は紙おむつ、〇歳児保育と便利になりすぎた育児環境で、親子の持つて生まれた能力が失われてきているのでは、と考えさせられた。最後は、大阪府立高校の桃田美結教諭の「本音でぶつかる学級経営・道徳教育」で、道徳教育の基盤になる学級経営の必要性を述べられた。一例として、学期初めの学級理念決めが重要であるとされた。学級理念はクラスで大切にしたい価値観で年間を通して常に立ち返る目標であつた。それだけに時間をかけ、生徒たち自身が共通にもつ理念づくりが大切であつた。以後、常にその理念をもとに、日常生活、行事への取り組みができ、生徒たちは安心感と誇りをもつ学級を作つていった。

午後は記念講演であつた。(次頁)

【記念講演】

自己肯定感を育てる宝物ファイル
プログラムの実践と展望(上)

小児発達学博士 岩堀美雪

1、はじめに

道徳が教科になった。その発端はいじめ問題への対応で、小学校学習指導要領(道徳科)によると、「児童がこうした現実の困難な問題に主体的に対処できる実効性ある力を育成していく上で道徳教育も大きな役割を果たすことが強く求められる」とある。しかし、いじめ対策は道徳科だけが担うのではなく、様々な問題の根底にある子供達の自己肯定感の育成こそが重要である。

2、自己肯定感と子供の発達

自己肯定感とは欠点も長所もあるありのままの自分を認めこれによいという気持ちで、一言でいうと、自分が好きということである。



自己肯定感とは人
生にいろんな影響
を与える。心理学
では自己肯定感が
低いほど、摂食障
害や情緒障害、不
安症に陥りやすい

ことが分かっている。七歳から二十
六歳までの一〇〇〇人について子供
時代の自己肯定感の影響を調べた
ら、自己肯定感が低い子供が大人に
なると、学力や経済力が低い、体が
不健康、有罪判決を受ける、あるい
は鬱病や不安症になりやすい、海外
では麻薬中毒になりやすい、という
結果が出ている。

またいじめの被害者と加害者の両
方共に、それに関係のない子より自
己肯定感が低いことや、自己肯定感
の高い子はいじめの被害者を守る行
動をとることが分かっている。

脳の発達と虐待に関係があり、幼
い時期に虐待を受けると脳が萎縮
し、自己肯定感を下げてしまう。

福井大学の友田教授がハーバード
大との共同研究で、大人の虐待歴、
子供時代にどういふ虐待を受けてい
たか、誰からいつどのよう頻度で
虐待を受けたかをポイント化して、
ある一定のポイント以上の脳と何も
虐待を受けなかった人の脳を比較す
ると、身体的虐待は前頭葉、心理的
虐待や暴言を受けた人は聴覚野、親
の目から入る虐待は視覚野に影響を
与えることが証明された。特筆すべ
きは身体的虐待よりも心理的虐待の
ほうが六倍影響が大きいということ
であった。

父親と母親の言葉でどちらが脳に

影響を与えるかという点、母親の言
葉は父親の言葉の三倍強く脳に影響
があることも分かっている。

自己肯定感と学習性無力感との関
係を調べたアメリカの研究もある。
犬を使って、自分の意志では回避で
きない苦痛を与えられると、本来な
ら簡単にできることが出来なくな
る。またはやるうとしなくなる。こ
れを学習性無力感と言って、自分は
何をやっても無駄だと思ってしまう
のである。

しかし、この状態から回復する唯
一の方法がある。それは周りからの
肯定的な言葉かけが回復させるとい
うことも分かっている。

このように大事な自己肯定感だ
が、日本の若者は諸外国と較べると
非常に低かったり、自分の長所に関
する愛着も断トツの最下位である。
今日日本の教育で一番必要なことは、
様々な問題が起きる前に、大人達や
子供達全員の自己肯定感を高めるこ
とである。

3、宝物ファイルプログラムの概要

そのために私は自己肯定感を高め
る宝物ファイルを子供達に作らせて
いる。

宝物ファイルを始めた切っ掛け
は、三十一年間の教員生活で子供達
から沢山のことを学んだからであ

る。それは、どの子にも必ず良いと
ころがある、ということである。私
は授業中にみんなには必ず良いとこ
ろがある。自分の良いところに気付
き、自信を持って、自分のことも、
家族や友達のことでも大好きになっ
て欲しいと言ってきた。

それを実現する手段が宝物ファイ
ルプログラムで、二〇〇〇年の十一
月二十八日、福井県越前町の岡本小
学校五年西組を始め、今全国で展開
し、二十六年目に入っている。

プログラムの流れは次の通りであ
る。

①初めに宝物ファイルの目的を説明
する。一人一人には良いところがあ
るので、それを認めて大事にするた
めに作ると述べる。

②最初の頁は「自分のことを大事に
しよう。家族や友達も大切にしよう」と書いて、ファイルの表紙裏に入れ
る。空欄には何でもよいので書かせ
る。紙が不足したら白いコピー用紙
を用意してあり、自由に持って行っ
て書けるようにしておく。

③次ぎに「目標とか夢、かなりたい
もの」を書く。

例えば鉄棒を頑張りたいとか、夢
は先生になること、などと書く。

④次ぎに「自分で思う自分の良いと
ころ」を書く。

私が受け持った子供に0個が3人

いた。涙目になって「一個も見付かりません。」と言うので、私は「今見付からなくても心配しなくていいよ。それは良いところがないのではなくて、自分で気付いていないだけだから、二学期のおわりにみつかるからね。」と言った。二学期の終わりには全員が書けるようになり一個だった子もたくさん書けた。

⑤その後は子供たちが残したいものを自由に選んでファイルさせる。

子供達は教師が何も言わなくても、自ら内発的動機付けによって自主的に入れていくようになる。

⑥ここで「宝物ファイルの名前」を決める。

最初は何も入っていないので、楽しい名前が見つからないからである。

まず一人一人が決めるか、みんな

で一個の名前に決めるかを話し合う。

クラスで一個の名前となったら、まずグループで相談をし、代表者がその名前になった理由を説明し、全員で決めていく。個別の名前でもよい。

⑦次に「友達の良さ」を書く。

クラス全員がクラスの子のことを書いていく。

⑧担任が「子供達全員の良いところ」を書く。

⑨保護者に「お子さんの良いところ」を書いてもらう。

書いて家族へ渡すようにする。

三年生の女の子であるが、「お母さんの良いところは料理が上手なところ。私を怒ってくるところ。」とあつて、分かっているなと思った。六年生の男の子で、わざわざ赤で「大好きなお母さんへ」と書いて、「毎日洗濯や料理などいろいろな事をしてくれるのでありがとうございます。いつも御礼を言えないけど、僕はすごく嬉しいです。」と日頃の思いを書き、大きい字で「ずっと一緒だよ」と書いてあり、私は思わず泣きそうになった。

⑨学期末に「みんなからの言葉と自分ががんばったことを振り返って、もう一回自分の良いところを書いてみよう」といつて書かせる。毎年、100%の確率で良さが増えた。

⑩最後に「最初に自分で立てた目標とか一年で出来るようになったこと」を書く。

宝物ファイルは、学期に一回ある教育相談で使い、三者で見ながら話し合う。

このプログラムには年間指導計画表があり、今の指導要領で低学年だと生活科の2の(1)とか道徳科のAの項目に合わせてやる、というように他領域の指導のどこに位置づけるか分かるようにしてある。また授業毎の指導案もつけてある。

4、成果

①五年生の男の子でおとなしい子が積極的になり、六年生の時に応援団長に立候補した。この子は最初に自分のよい所を一個書くのがやっとであった。それが二月にはたくさん書けるようになり、「四月に自分の良いところが全然見付からなくて、な」と思っていたけど、今はたくさんあることが分かりました。」と書いていた。子供は自信をもつと、これほど変わるのだと言うことを、彼から学んだ。中学校では級長もやっているようである。

卒業前にその子のおばあさんが手紙を書いていただけで、

「この子は小学校に入ってから、毎日日行くのがいやだ、つらいとい

っていました。こんなに気の弱い子が六年間もつのだらうかと思いま

したが、六年生になった今では、お

ばが肩痛いんか、僕が肩をたたいてあ

げるよ、とばの体調まで気遣って

くれます。この成長ぶりが何より嬉

しいです。先生ありがとうございま

した。」とあつた。

②三年生の男の子。始業式から教室に戻ったら、全員いたのに一個席が空いていた。すると教室の隅に蹲っている子がいて、目を見合わせる、私をにらみつけて「うー」とうなつた。私は貴方の席はそこではないよ

と、何とかなだめて座らせた。最初からそんな風なので、授業になっても何もしなかった。教科書もノートも出さず、宿題も一個もやっつてこない。私はこの子に何が出来るのだろうと思ったが、ただ迷っついても仕方がないので、この宝物ファイルをやると、放課後の個別指導をした。お母さんと連携をとりながら週に一度くらい特に算数をやった。一年生の一対一対応から始め、その後、足し算から引き算、繰り上がりのある計算、そして一年生の九九と順番順番にやっつていった。すぐに覚えられないものは書きながら覚えるようにした。二学期になると少し様子が変わってきた。彼が「今度の水曜日の放課後は残るのでですか。」と聞いてきたのである。そして、今度の水曜日かなと言つと、「やっつた」と言つてきた。その二学期のおわりに奇蹟が起きた。かけ算のまとめのテストをしたところ、百点をとつた子が四人いた。そのうちの一人が彼だったのだ。私も○をつけながらおーつと思つたが、彼もぼかーんとして驚いていたが、彼より驚いたのが周りの子たちで、集まっつてきて「あーこいつに負けた」と、三年生でもこいつには負けないぞと思つていたのだ。三学期になると宿題を忘れなくなり、ある日に四時間目がおわつて

